

【社会人特別選抜 小論文】（教科教育専攻 国語教育コース）
（平成30年度入試の問題）

次の問一～問三の中から二問を選び、それぞれについて答案用紙に記述しなさい。

問一、現在の学習指導要領改訂の動向において、国語科に関して強調されていることのうちの一つを挙げなさい。そして、それが重視されるに至った理由として考えられることを述べなさい。

問二、次の古文の文章をふりがなを含めて、全て現代仮名遣いに書き直しなさい。

また、古文の音読に関して、あなたの考えを述べなさい。

むかし、山の西^{さいたふせんじゆゐん}塔千^{たふせん}手^て院にすみたまひける^{じやうくわんそうじやう}静^{しやう}観^{くわん}僧^{そう}正^{しやう}とまうし

ける座主^{ざす}、夜深くて尊^{そん}勝陀羅尼^{しょうだらに}を夜もすがら読みて明かして年ごろになりたまひぬ。

聴く人もいみじく尊^{たふと}みけり。

問三、次の文章は鎌倉時代の歌論書『野守鏡』の一部である。この文章を参考に、日本文学史における和語と漢語の問題について述べなさい。

また、心をあらはす事はいづれもおなじ事にて侍れども、経論、外典、解状、消息、真名、仮名、世俗ものがたり、詩歌の言葉ども、皆その文体ことなり。なんぞいま和歌と世俗おなじくせんや。藤原保昌、歌をうらやみて、

早朝におきてぞみつる梅花を夜陰大風不審不審よ

とよみたりける。和泉式部ききて、歌詞にはかくこそよめとて、

朝まだきおきてぞ見つる梅花よのまの風の後めたさに

とやはらげたりける。おなじ心とおおぼえずおもしろくきこゆるをもてもしるべし。